

少年団 絆深める

キャンプ・奉仕…歓声再び

七日市少年団キャンプ



中部少年団 神輿巡行



西部少年団ビンゴ大会



キャンプ、奉仕や祭り…少年団の恒例行事が徐々に復活した。新型コロナウイルスに負けない子どもたちの歓声が地域に響き、出部を再び元気づけてくれる。

(10・11に関連記事)

感染拡大により2020年から、学校を初め少年団や子ども会の行事は中止せざるを得なかった。子どもたちの楽しみが奪われた2年間でもあった。「子どもたちを喜ばせたい」と保護者や関係者が、感染防止策を徹底して行事やイベントを再開している。

七日市と中部の両少年団は、市内でキャンプを実施。西部少年団は地元の公園でビンゴ大会を開いた。資源回収活動、秋祭り子ども神輿の巡行をした地区もあった。夏から秋にかけて、子どもたちは友情を結び、絆を深めている。

メニュー

いばら出部JVC中国大会3位	2面
黄色いハンカチ掲示訓練	3面
山間にこだま野外フェスタ	6面
6年ぶり公民館杯ゴルフコンペ	16面
光のおもてなし月見茶会	17面

出部地区人口	2022年 10月31日現在	7,376(175)人	男3,612(80)人	女3,764(95)人	世帯数3,150(148)戸	
	2022年 6月末比	-27(11)人	-21(-4)人	-6(-7)人	-26(-13)戸	※カッコ内は外国人



中国大会 3位

いばら出部JVC（女子）は8月13、14の両日、広島市で開催された小学生バレーボール中国大会に、3年ぶり3回目の出場です。過去最高の第3位に入賞しました。8月21、28の両日に岡山市で開かれた、ECCジュニア杯岡山県小学生バレーボール選手権大会では、悲願の初優勝を果たしました。

現在は1年生から6年生まで18人在籍しており、出部小学校体育館を練習会場として活動しています。『継続と徹底。心と技を制す。感動を与えるバレーを』を合言葉に、スポーツの楽しさを覚え、チームワークを大切に、そして心と体を成長させるため、日々汗を流しています。

次の目標は、12月に行われる全国スポーツ少年団バレーボール交流大会岡山県予選で優勝し、全国大会に進み勝ち上がることです。目標が達成できるよう、これからもチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

（いばら出部JVC代表 出原正徳）



いばら出部JVC（女子）快進撃

バレーは楽しい / 多くを学び経験

中国大会優勝という目標に向かって頑張ってきましたが、3位という結果はとても悔しいです。楽しいことと同じくらい辛いこと、苦しいことがあったけど、やっぱりバレーは楽しいです。これからも頑張っていきます。

（出部小学校6年 山本夏菜）

バレーボールをしてたくさんの方のことを学び経験できたので入団して本当に良かったと思います。いばら出部JVCでは新入団員を募集しています。みんなで一緒にバレーボールをしましょう。待ってるよ。

（出部小学校6年 倉田明佳）

黄色いハンカチ掲示訓練

地震想定

自治会ごとに指定場所へ避難



出部西部自主防災会は8月28日、災害時に「我が家は大丈夫」を知らせる安心の黄色いハンカチ掲示訓練と、地震を想定した避難訓練を実施した。

黄色いハンカチは出部西部地区の63%の539世帯が掲示した。門柱や玄関に結んだり、レターボックスに広げて揚げたりして、「生存」を知らせた。避難訓練には地区内44自治会が参加し、単位自治会ごとに決めた一時集合場所に集合した。

安心の黄色いハンカチは各家庭の安否確認をスムーズに行う道具としていずえ地区まちおこし協議会が全戸に配布した。



2 防災会が倉庫を設置

西部公園 西部協と家後屋自治連

出部西部地区の防災の要となる出部西部防災会と家後屋自主防災団は6月、出部西部公園に防災倉庫をそれぞれ1棟設置した。

両防災倉庫は平屋9.9平方メートル、倉庫内には照明灯、誘導棒、拡声器、バールなどの防災備品が置かれている。

今後も両防災会、団は防災倉庫に井原市の補助金を利用した防災備品の充実、災害時の必需品を備蓄していく。

敬老行事

心つないで縁結び

今年度もコロナ禍のため敬老会は中止になりました。出部つなぐ会と出部地区社会福祉協議会は、感謝の気持ちを込めて長寿を祝う記念品を988人の対象者に贈りました。今年度は、タオルとお札を添えたしおりを記念品として届けました。

タオルには、疫を拭い去るという意味があるようです。使っていただくと幸いです。これからも健康に気を付けて心豊かに過ごしてください。



タオルと長寿祈るお札届ける

敬老者対象年齢について

- 来年度以降の敬老会対象の方
- 令和 5年度 78歳以上
- 令和 6年度 79歳以上
- 令和 7年度 80歳以上



中部自治会だより

上出部公園すっきりさっぱり

連合会役員たちが清掃（9月25日）



愛育委員会 健康講座

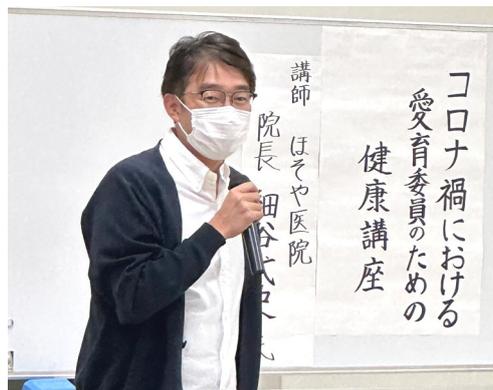
コロナとともに歩む

細谷院長が講演

9月30日に愛育委員会・健康講座を開催しました。「新型コロナウイルスとともに歩む」と題してほそや医院・細谷武史院長からお話を聞きました。

内容は（1）新型コロナウイルスの今（2）コロナ時代になって変わったこと（3）フレイル、サルコペニア（4）糖尿病についてでした。いろいろな資料を提示しながら分かりやすく説明していただきました。

先生の話をもとめると（1）もうしばらくはウイズコロナで楽しみを見付けながら前向きに生活していくこと。（2）がん検診などの各種健康診断は忘れずに受けること。（3）寝たきりにならないためにたんぱく質をとってしっかり運動し、「貯筋」すること。先生のおすすめは片脚立ち（左右1分間ずつ1日3回6分）（4）現在6人に1人は糖尿病又は予備軍。①食事療法②運動療法③薬物療法を偏らないですること。困ったことがあったら先生に相談して下さいとのことでした。これからも健康な体でいられるように自分にできることから始めてみましょう！



ひまわり学級 絵手紙教室

9月10日に今年度3回目のひまわり学級を行いました。3回目は絵手紙講座で、今年度は葉書だけではなく、ミニ番傘にも挑戦しました。

テーマは秋。まずは、葉書にそれぞれの秋を描き、その後、ミニ番傘に挑戦!!最初は戸惑いながらも講師の三宅喜代子先生にお手本を見せて頂きながら、各自好きな秋の画材を選び、楽しく描くことができました。素敵な作品が出来上がり、皆さんとても満足そうな顔をしていました。



山間に希望奏でる

野外フェスタ2022

いづえ野外フェスタ2022が10月15日、井原市リフレッシュ公園芝生広場で開催された。晴れ渡る秋空の下、バラエティー豊かな5組の出演者が繰り出す希望の音色に、地元の人たちや家族連れなど多くの人たちが聞き入った。



いづえ地区まちおこし協議会が、音楽で出部の町を元気にしようと、昨年度から出部公民館と共催で開いているイベント。今回が2回目となる。

初出演の「いづえフォーク村」メンバー、夫婦デュオの「Toffy & Rosy」は、2人の息の合った演奏と、山間に響き渡る木の笛コカリナの音色が印象的だった。続くギター弾き語り遠藤晶大さんは、若さあふれるエネルギッシュな演奏で聴衆の心を魅了した。昨年に引き続き出演のトランペット崎谷由佳利さんと、ピアノ安倍千晶さんのデュオ「PITO (ピト)」は童謡から往年の名曲まで、トランペットの魅力ある音色を秋空に響かせていた。

「いづえフォーク村」メンバーのショージ三宅さんによる人の優しさを語りかける

演奏には、観客もしみじみと聞き入っていた。最後は、初出演となる「井原吹奏楽団メルヘンウインドアンサンブル」の迫力ある演奏が会場を包み込み、フィナーレの「マツケンサンバ」が明るく元気に締めくくった。

自然の中で音楽に触れる感動、音楽を通して共感し、人がつながる素晴らしさを改めて実感したイベントであった。来年度、3回目がより多くの地域の皆さんの参加を得て開催できるよう、さらに地域のネットワーク、絆を広げ、深めていきたい。

(石丸知美)



声楽アンサンブル

出部公民館は7月22日、いずえカフェ連携イベントとして、声楽アンサンブル「夏は来ぬ」と題したアフタヌーンライブを多目的ホールで開いた。

オペラマイスター日高所属の富山育美さんと笹賀町出身の石丸明日美さんが出演。地元の倉橋千恵子さんがピアノ伴奏を務めた。「故郷」「オーシャンゼリーゼ」「見上げてごらん夜の星を」など唱歌から懐メロ、シャンソンまで美しいソプラノを響き渡らせた。集まった人たちは「澄んだ高音、透明感あふれる素晴らしい歌声」と聞き入っていた。



歌声響くアフタヌーンライブ



青春の歌 フォーク村

いずえカフェ連携アフタヌーンライブ「フォーク村 青春の歌」が9月16日、出部公民館で開かれた。公民館サークルいずえフォーク村の村民4人が、ひこうき雲(ユーミン)、思い出の渚(ザ・ワイルドワンズ)、悲惨な戦争(PPM)など、それぞれの世代の青春に口ずさんだ曲を熱唱した。



防火標語 優秀賞決まる

国道313号沿いの看板に掲載

笹賀町の鳥越酒店東の国道313号沿いにある防火標語を掲載した看板を設置しておりますが、前回行った平成24年の更新より10年が経過しているため、出部小学校の児童に新しい標語の募集を行いました。そのうち特に優秀だった2作品を優秀賞とし、看板に掲載させていただきます。(敬称略)

《優秀賞》

「見たくない!! 大事な地域で 火事の火を」

|| 有岡 多笑 (6年)

「幸せを 失う前に 火の用心」

|| 山崎 菜生 (6年)

○佳作

「火の用心 きみの未来に つながるハート」
= 関戸 みあ (2年)

「少しの火 一生残る 後かいへ」
= 小田原 未宙 (5年)

「あんぜんに かじゼロいばら めぎすとき」
= 久安 由菜 (6年)

令和4年10月に七日市町の南部水門が完成しました。水門自体に排水機能を有した水門で、普段は水門を上げて出部内の雨水や農業用水を小田川へ送っています。いざ大雨が発生し小田川の水位が上がると、水門を閉めて内水をポンプで排水できるようになりました。

平成30年11月に完成した北側排水ポンプ場(七日市町 日芳橋西)の排水量0.154m³/秒と合わせると、0.454m³/秒の総排水量となります。

ただ両設備を稼働させても小田川の越水や、災害時に停電が起こってポンプが止まる恐れもあります。災害時には周りの状況をよく注視し、早めの避難所への避難をお願いいたします。

七日市の南部水門完成

0.3m³/秒の排水機能備える



参考…ポンプ車排水量0.047m³/秒～
0.025m³/秒
小型可搬ポンプ排水量0.017m³/秒以下



あなたの手であなたの大切な人や町を守りませんか？

出部防災史跡

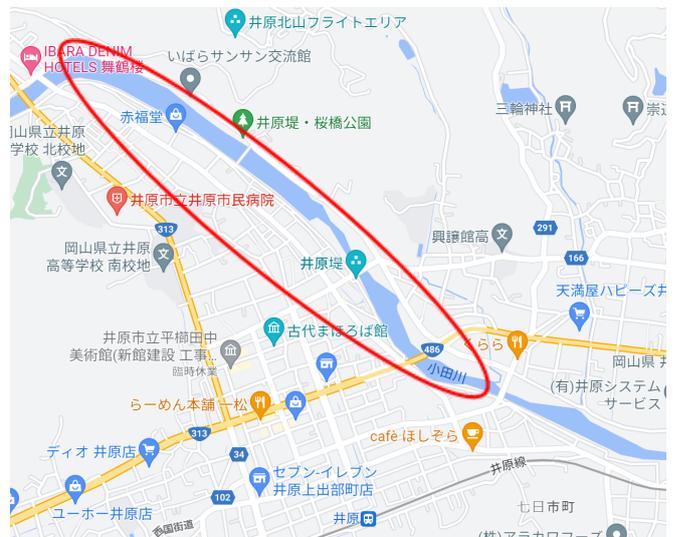
井原堤

＝井原町～七日市町

井原町から七日市町にかけて小田川沿いにある井原堤は、春は桜の名所として有名で、数多くの水害から出部を守って参りましたが、その始まりについてははっきりと分かっていません。

井原市史によると、小田川は戦国時代には東四分、西六分の流れ方だったところ、福山藩主の水野勝成が福山を水害から守るために元和5年（1619年）に西の流れをせき止めたという伝説が残っているそうです。歴史のロマンを感じ詳しく調べたところ、水野勝成が高屋川の工事をしたという記録は出て来ても、小田川を工事した記録は出てきませんでした。更に調べると、水野勝成は大江・高屋より東を領有しており出部は領有しておらず、沼地の中を流れていた高屋川を整備して高屋や神辺に新田開発を行ったとのことでした。

これは困ったと思いつつも更に調べていくと、個人発行ですが「穴の海の潮騒が聞こえた 小田川の争奪と縄文海進（平成8年3月3日発行 著：清水久人）」という書籍を見つけました。詳細な内容はぜひご覧になって頂ければと思いますが、要約すると、小田川の成り立ちをボーリング調査で地質学的に調査すると、約八千年以前に河川の争奪により西から東の流れとなっており、それ以降は氾濫した時などにだけ、一時的に川の流れが西に流れていたことが分かるそうです。



結果として水野勝成が流れを変えていなかったことが分かりましたが、堤防は誰が作ったのかという問いは残ったままとなりました。もし興味をお持ちの方がいらっしゃったら、ぜひこの出部を守っている井原堤を作った人を調べてみてください。

輝く元気 膨らむ笑顔

9月3日～4日、キャンプ (星の郷ふれあいセンター)

キャンプファイヤー、長いストローイッキ飲み対決、火起こし対決、花火…。「キャンプめっちゃ楽しかった」と子どもたち。21人は夜寝ずに大はしゃぎしていたので、帰るときはさすがに疲れていました。

中部少年団



七日市少年団

7月2～3日、キャンプ (星空間オートキャンプ場)

夕食メニューはカレーとバーベキュー。野菜を切ったりお米を炊いたり。焚き火もしたので薪割りに挑戦しました。夜は少し雲が出ていましたが、美星の夜空を見上げて流れ星を探しました。寝るのは子どもたちだけで、1つのテントでわいわいやりながら寝ていました。



西部少年団

6月12日、ビンゴ大会 (水掻公園)

キャンプの代わりに公園清掃後、ビンゴ大会を開きました。45人参加。おもちゃなど同じ値段の景品を購入し、団員のみんなに公平に渡るようにしました。子どもたちは大興奮。センスのいい景品に大喜びでした。



10月2日、資源回収

保護者と子どもが一丸となって頑張りました。とても暑くてしんどかったですが、地域の方が協力して下さったおかげで、沢山の段ボールや新聞が集まり感謝しております。

10月15～16日、夜店・子ども神輿巡行



3年ぶり健康づくり研修会

出部地区社会福祉協議会 9月17日、コロナ禍のため中止していた健康づくり研修会を3年ぶりに出部公民館で開いた。

地元の井原腎泌尿器科クリニックの西村元一院長がおしっこをテーマに講演した。約40人が尿と病気について熱心に耳を傾けた。

西村院長は正常の排尿の量、尿の色と考

おしっこのお話



西村院長が講演
(井原腎泌尿器科クリニック)

えられる病気（膀胱炎、尿結石、糖尿病など）のリスクと症状や尿トラブルの具体的な症状を挙げて、わかりやすく説明。試験紙法による尿検査の数値を示した。

自分の尿の色などが体調の見極めになる、尿検査により具体的な病気がわかるなどと呼び掛けた。



友愛訪問 果物届ける

高齢者にメロンやブドウ

出部地区社会福祉協議会の友愛訪問は本年度も、90才以上の高齢者たちに果物を届けました。

8月9日、在宅で77才以上の一人暮らしの高齢者と虚弱・寝たきりの148人を訪れ、手紙を添えてメロンを贈りました。

9月7日には井原特産のブドウと手紙を添えて、在宅で90才以上の127人を訪れました。



集中 熱いパット

スポーツ日和となった10月8日、出部地区社会福祉協議会のグラウンドゴルフ大会が四季が丘の市グラウンドゴルフ場で開かれた。

コロナ禍のため中止していた大会は3年ぶりの開催。23人が秋のさわやかな風を受けて、熱戦を繰り広げた。芝とクレーの2コース16ホールで競い、34打の山崎春夫さんが制した。準優勝は安井信子さん、3位には川上マサコさんが入った。

3年ぶり出部社協Gゴルフ大会



安井信子さん 2位

山崎春夫さん V

川上マサコさん 3位



ペーパークラフトに挑戦

家後屋さくらんぼの会

家後屋さくらんぼの会のメンバー13人は10月18日、ペーパークラフトづくりに挑戦した。ナイフやハサミを使い、切る、折るの細かい作業に取り組んだ。長く切りすぎたり、短かったり…。ハロウィンのカボチャ人形、三宝と月見団子、セミの3種類を仕上げた。

優しい味にホッコリ

おやつクラブ
どら焼き作り

第2回おやつクラブが10月27日、出部公民館調理室で開かれた。

クラブは自由参加形式のお菓子作りの会で、出部地区の子や孫にかかわるすべての人が対象。午前10時から午後1時の間の好きな時間に、当日のおやつを作り、家に持ち帰る。

第2回のおやつは「もちもちどら焼き」。どら焼きの皮を焼いて、電子レンジで作ったカスタードクリームを挟んで出来上がり。参加費は2個で100円。次回のクラブは11月22日火曜日に開催する。



ふるさと出部発見 フォトコンテスト

締め切り2023年1月31日(必着)

応募の注意

※2022年3月から2023年1月までに出部で撮影した写真、出部をテーマにした作品。地区外からの応募OK
 ※デジタルデータ (jpeg、メールで応募可) カブリントアウトした作品 (2L判~A3判)
 ※氏名・連絡先、タイトル、撮影日・場所、小学生は学年を明記。1人5点まで (組み写真不可)

※スマホ・タブレットの写真も可。他コンテストとの二重応募不可
 ※インスタからの応募も受け付けます。出部公民館のInstagram「izuekm」をフォローのうえ、ハッシュタグ「#ふるさと出部発見」を付けて、撮影地・撮影日・応募部門などを記載し、写真を投稿してください

●一般部門
 最優秀賞(商品券2万円)
 優秀賞(同5000円)
 審査員特別賞

賞・賞品

●キッズ部門(児童・園児)
 最優秀賞(図書券3000円)
 優秀賞(同1000円)
 審査員特別賞

【送付先】

〒715-0021井原市上出部町1219-2
 出部公民館「ふるさと出部発見
 フォトコンテスト」係
 tel・Fax:0866-62-3960
 mail:izue-km@ibara.ne.jp

伝える手話 つながる心

出部公民館と出部地区社会福祉協議会は10月1日、手話ミニ講習会を出部公民館で開きました。



講習会に
20人



講師は井原手話サークルの岡崎忠副会長と市福祉課の藤井直美さん。まず受講者20人が言葉をジェスチャーだけで次の人に伝える伝言ゲームにチャレンジしました。「ぶどう」でスタートしたはずが、いつの間にか「バナナ」に変換されてしまいました。伝える難しさを体感しました。

講習会では、自分の名前と簡単な自己紹介、日常のあいさつの手話表現を学習（これがなかなか覚えられない）。参加者同士でペアを組み、お互いに見せ合いますが、自信のなさもあって手の動きが硬くなりがちです。例えば、「ぶどう」と「藤（の花）」の手話は似ているので、恥ずかしくては上手く伝わりません。

また、手の動きだけでなく表情も大事で

す。聴覚障害者の中には相手の口の動きを読まれる方も多くいらっしゃいます。しかし、近年のマスク事情によりそれも困難な状況であると岡崎さんが指摘していました。

2025年秋、「デフリンピック＝耳の不自由なというデフ（d e a f）＋オリンピック」が東京で開催されることが決定しました。4年に一度開かれる聴覚障害のあるアスリートたちの国際大会で日本での開催は初となるそうです。

言語には「音声言語」と「手話言語」があり、井原市は平成30年4月1日に手話言語条例が施行し、障害の有無にかかわらず、お互いに尊重し支え合いながら共に暮らせるまちづくりを推進しています。

青空に弾けるショット



佐藤博さん準優勝



橋本芳起さん3位

出部公民館のレクリエーション活動の一環として、第21回出部公民館杯ゴルフコンペを、10月3日に岡山西ゴルフ倶楽部で開催しました。

絶好のゴルフ日和に恵まれ、まず31人の参加者全員で笑顔の記念撮影。一同かたずくので見守る中、藤井信也館長の始球式のセレモニーを合図に、和やかにコンペがスタートしました。

20回続き6年前に中断したコンペの再開となり、大会を待ち望まれていた方や、数回しかラウンドしたことのない

6年ぶり出部公民館杯ゴルフコンペへ

久安憲男さんV



い初参加の方たちが、思い思いにゴルフを楽しまれたのではないのでしょうか。

今回優勝された久安憲男さんは「久しぶりに会う地域の方と、ゴルフを通じて親交を深められた。とても良いことだと思います」と喜ばれていました。

ご協力を頂いたすべての皆様に、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(三宅博文)



静寂と光のおもてなし

月見茶会 秋の一服

9月11日、出部公民館の玄関前で、月見茶会を行いました。駐車場のフェンスに、いずえ地区まちおこし協議会の竹あかりが設置され、野点茶会の雰囲気盛り上げていただきました。

私は、最初に点前をしました。点前中は、何も考えられず夢中でした。まだまだ、未熟なので、先生が側で見てくださり、なんとか終わり、ホッとしました。

茶会では、水屋が大変です。若い人たちが手伝ってくださり、ありがたかったです。年の差があっても、打ち解けて楽しくできました。「お月さまとうさぎのお菓子がかわいくて、持って帰って家族に見せてあげたい」「竹あかりがきれい」「お茶もお菓子もおいしかった」などお客様の声を聞くと、うれしくなりました。

私は、お茶が大好きです。もうすぐ90才になりますが、皆に助けをいただきながらお茶を楽しみたいです。公民館の皆様、お越しくださったたくさんのお客様、ありがとうございました。
(落合澄子)



夏フェスタのレガシー竹あかり 移設、公民館を彩る



いずえ夏フェスタ2022で井原駅前を彩った竹あかりを出部公民館駐車場に移設した。

竹あかりは9月10日、大型トレーラーで丸ごと運搬。駐車場東側20m区間の柵に設置した。10月7日までフェスタのレガシーは地域の交流拠点を照らした。

出部地区新年互礼会と文化祭は中止

出部地区文化祭に代わる発表の場

出部公民館は、中止となった出部地区文化祭に代わる発表の場を設けます。

2月、個別に開催

公民館で個別の作品展示会や芸能発表会を、「いずえカルチャー月間～きさらぎ」として、2023年2月に順次開催します。希望するサークルなど団体・個人の方は、公民館まで申し出てください。

申込書は出部公民館にあります。部屋の確保や日程調整などがありますので、12月15日までをお願いします。

問合せ先：出部公民館 0866-62-3960



izuekm

出部公民館はInstagram（インスタグラム）で情報を発信しています。事業やイベントなど公民館だけでなく、地域の情報をこまめに掲載します。左記のQRコードを読み込んで出部公民館インスタ（izuekm）をフォローしてください。「いいね」もよろしくをお願いします。

いずえ地区まちおこし協議会のホームページ

<http://www.ibara.ne.jp/~izue-km/machi/>

いずえ地区まちおこし

検索

夏季囲碁・将棋大会

夏季囲碁・将棋大会（中国新聞備後本社後援）が出部公民館で開かれた。

8月21日の囲碁大会には24人が参加した。8月28日の将棋大会は30人が盤上で熱戦を繰り広げた。



盤上で熱闘

成績は次の通り。

（敬称略）

《囲碁》

A級①安部 弘和②田辺 皓正③森下 道雄

B級①木山 直明②西田 義晴③中原 俊法

《将棋》

A級①石井 孝明②寺岡 泰伸③後藤 正志

B級①川合 宏治②内山 陸男③萩野 裕幸

C級①佐々木光太郎②松田 直樹③小田 翔太



新春囲碁・将棋大会ご案内

出部公民館主催、山陽新聞社後援

囲碁大会 1月22日（日）

午後1時から競技開始、受付は午後0時半から

会場：出部公民館

競技：参加者の段級によりA級（2段以上）・B級（初段以下）で競技

会費：500円、小中高生は無料

問い合わせ：坂本 等さん ☎62-2496

出部公民館 ☎62-3960

将棋大会 2月5日（日）

午後1時から競技開始、受付は午後0時半から

会場：出部公民館

競技：過去の成績によりA・B2級で競技
C級（子ども将棋）

会費：500円、小中高生は無料

問い合わせ：鳥越哲史郎さん ☎63-0759

出部公民館 ☎62-3960

《申し込み》＝囲碁・将棋共通

往復はがきで開催案内を送りますので、返信で出欠をお知らせください。初めての方も奮ってご参加をお願いします。

ご寄付 ありがとうございます

地域のためにと満中陰志のご寄付をいただきました。謹んでお礼申し上げます。

（敬称略）

《下出部自治連合会》

- 田中 廣治（亡母）

《中部自治連合会》

- 吉岡 一雄（亡父）
- 国末 文夫（亡母）

《出部地区社協》

- 増成 保枝（亡夫）
- 碓本 芳正（亡母）
- 藤原 慎一（亡父）
- 国末 文夫（亡母）

飛び出せ いずえっ子



森 もり
亮介 りょうすけ ちゃん

男の子 (2016年11月23日)
= 上出部町



平本 ひらもと
梨織 りおな ちゃん

女の子 (2016年12月17日)
= 上出部町



三宅 みやけ
舜大 しゅんた ちゃん

男の子 (2022年3月4日)
= 上出部町

津組 つぐみ 潤 じゆん ちゃん

男の子 (2017年10月19日) = 笹賀町



津組 つぐみ
朔 さく ちゃん

津組 つぐみ
蘭 らん ちゃん

男の子
(2022年4月11日)

女の子
(2020年12月10日)



松尾 まつお
柚來 ゆら ちゃん

女の子 (2016年5月4日)
= 下出部町



小林 こばやし
鈴 りん ちゃん

男の子 (2016年5月31日)
= 笹賀町

「ふるさと出部」では元気なお子さんをご紹介します。
保護者の連絡先を添えて出部公民館 (〒715-0021、井原
市上出部町1219-2) まで郵送するか持参してください。
メール (izue-km@ibara.ne.jp) でもOK。

編集後記

コロナにくじけぬ子どもたちの元気な声が地域に響いた。保護者や関係者の人たちの努力で恒例行事が徐々に再開。キャンプ、スポーツ、奉仕などに快い汗が流れた。感染の行方は不透明だけど、子どもたちには、少しでも世界の紛争に思いをはせながら、平和なときを精いっぱい楽しんでほしい。

(S. F)